

SDT

制振工学研究会通信

SOCIETY OF DAMPING TECHNOLOGY NEWS

2016年 1月号

2016年 1月 1日発行
編集 集：会報編集委員会
編集責任者：小白井 敏明
担当者：立石 覚
URL <http://www.sdt-jp.com>
E-Mail: info@sdt-jp.com

◇ 2016年を迎えて

会長 岡村 宏

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。制振工学研究会を取り巻く環境も近年大きく変化しており、それに対応することが求められています。幸い、昨年末の技術交流会を始め、会員の若い世代の活躍が見られたことはうれしいことです。今年はさる年で統計学的に波乱の多い年とされています。本年も、活発な活動とアウトプットを出せるよう、会員皆様のご理解をいただき、研究会の活動に積極的にご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

◇お知らせ

・本通信により会員各位に有用な情報を提供すべく毎月の編集会議では頭を悩まして議論しております。つきましては、ここで取り上げてほしい事がございましたらそのご要望を次のアドレスまで是非お寄せください。

E-MAIL: yamagu@pc.highway.ne.jp

◇研究会の行事案内

開催日時	開催地・会場	名 称	内 容
-	-	-	-

◇分科会・WG・委員会の予定

開催日時	開催地・会場	名 称
16. 01. 15 13:00~15:00	工学院大学新宿校舎 A1711室	会報編集委員会・ホームページWG、会報編集委員会
16. 01. 15 15:00~17:00	工学院大学新宿校舎 A1711室	役員会
16. 01. 22 13:00~17:00	スペクトリス(株) C&D会議室	計測評価技術分科会・音響管計測WG2
16. 01. 29 17:00~19:00	東工大・大岡山キャンパス・南8号館102講義室	材料技術分科会
16. 02. 18 13:00~17:00	スペクトリス(株) C&D会議室	計測評価技術分科会・粘弾性特性比較検討WG

◇会員消息 (2016年 01月 1日現在)

○会員数		○退会者
法人会員	26 社	-
個人会員	50 人	1人
学生会員	1 人	-

◇関連学協会等の行事案内

(次ページに続く)

開催日	開催地・会場	名 称	主催団体及び内容
01. 13-14	日本機械学会会議室 (東京都新宿区)	講習会 回転機械の振動	日本機械学会 http://www.jsme.or.jp/event/detail.php?id=4204
01. 20	大阪科学技術センター (大阪市西区)	第221回ゴム技術シンポジウム 「トライポロジーのフロンティア I」	日本ゴム協会 http://www.srij.or.jp/newsite/pdf/event_15112003.pdf
01. 21	日本機械学会会議室 (東京都新宿区)	技術講習会 昇降機・遊戯施設等の最近の技術と進歩	日本機械学会 http://www.jsme.or.jp/event/detail.php?id=3861
01. 22	建築会館ホール (東京都港区)	シンポジウム 東日本大震災から5年-建築振動工学の到達点と残された課題	日本建築学会 http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2015/160122.pdf
01. 22	京都工芸繊維大学 (京都市左京区)	第89 回高分子材料セミナー 高分子・繊維材料研究の最近の話題から	日本材料学会 http://www.jsms.jp/index_4.html
01. 25-26	大阪科学技術センター (大阪市西区)	関西支部第342回講習会 事例に学ぶ流体関連振動(トラブル事例相談会付き)	日本機械学会 http://www.jsme.or.jp/event/detail.php?id=4203

(次ページに続く)

➤ 日本建築学会 室内音響小委員会 室内音響設計事例集企画検討WGが編集協力した書籍発刊のご案内。

彰国社刊 季刊「ディテール」207 2016年1月号

特集「吸音から考える音環境のディテール」

12月17日(木) 書店にて発刊

<http://www.shokokusha.co.jp/?md=d>

吸音がどんなところに必要か。どんな効果があるかをイラストで分かりやすく説明しています。また納まりやデザインなど事例が紹介されています。

➤ 世界初 スーパーグロース・カーボンナノチューブの量産工場稼働ー日本ゼオン(株)が量産開始へー

NEDOプロジェクトの成果をもとに、産業技術総合研究所が開発したスーパーグロース(SG)法を用いたカーボンナノチューブ(CNT)の世界初の量産工場を日本ゼオン(株)が完成させ、稼働を開始しました。

SG法は高速・大量合成が可能であり、SG法で得られるCNTは、従来と比較して、高アスペクト比、高純度、大表面積といった特長を有し、従来にない機能や特徴を持つ新機能性材料、次世代デバイス等への応用が期待される材料です。高性能キャパシタ、高機能ゴム材料、高熱導電材料等の革新的材料やデバイスへ応用できることから、その需要拡大が見込まれます。日本ゼオン(株)は、2015年11月から量産を開始します。

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2015/pr20151104/pr20151104.html

➤ タイヤがセンサーになる技術の世界初の実用化、2020年までに一般車に展開

ブリヂストンは、タイヤの接地部分から路面状態を判別する技術「CAIS(カイズ)」が、ネクスコ・エンジアニリング北海道による冬季の高速道路路面管理に採用されたと発表した。「こうしたタイヤセンシング技術が実用化されるのは世界で初めて」(ブリヂストン)だという。CAISを使えば、タイヤ内部に接着した加速度センサーで検知した振動の波形の特徴を基に、「積雪」や「凍結」、「湿潤」など次々に変化する雪道の路面をきめ細かく区別できる。高速道路管理事務所は、CAISで得た路面状態の情報に合わせて凍結防止剤を散布して効率のよい凍結対策が可能になる。

<http://www.bridgestone.co.jp/corporate/news/2015112502.html>

➤ 世界初、地震エネルギーで揺れを止める新世代制震装置「HiDAX-R【Revolution】」を開発～世界最高の制震効率を達成した革新技術「VERS」を搭載～

鹿島(社長:押味至一)は、建物用制震ダンパーとして、世界初となる振動エネルギー回生システムVERS(Vibration Energy Recovery System)を搭載した新世代制震オイルダンパー「HiDAX-R(Revolution)」を開発しました。本ダンパーは、自動車のブレーキ制御などで用いられているエネルギー回生システムの原理を初めて建物に応用したもので、地震による建物の振動エネルギーを一時的に補助タンクに蓄え、それをダンパーの制震効率を高めるアシスト力として利用することにより、従来型装置の限界を大幅に超えた世界最高の制震効率を達成しました。風揺れから震度7の大地震までカバーするのはもちろんのこと、頻度の高い震度4～5クラスの地震や長周期地震動に特に高い効果を発揮し、一般的な制震構造と比較して揺れ幅を半減、揺れが収まるまでの時間を劇的に短縮することが可能です。

<http://www.kajima.co.jp/news/press/201507/27a1-j.htm>

事務窓口

〒104-0061 東京都中央区銀座 2-10-18 一般社団法人 日本合成樹脂技術協会

Tel. 03-3542-0261

Fax. 03-3543-0619

URL <http://www.sdt-jp.com>

E-Mail: info@sdt-jp.com